

ちばの地域福祉

地域福祉の未来を拓^{ひらく}

千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会
副会長 吉野 智

千葉県地域福祉支援計画によって生まれた中核地域生活支援センターも10歳を超えて新たな役割を模索している過渡期に入りました。中核センターが生まれた平成16年には、地域包括支援センターも基幹相談支援センターもありませんでした。それが現在は生活困窮者自立支援法による相談支援も開始され、地域福祉の様相は、相談支援体制だけ見ても確実に充実且つ広がりを見せてきています。しかし、それでもなお、中核センターの全圏域の相談実績は年間9万件を下回ることはありません。それは、その時代の地域ニーズの変化を敏感に察知し、その時代にあった立ち位置と実践になるように、常に柔軟に対応していることに他なりません。つまり、法定制度では対応できない部分、十分に対応できない部分がまだまだ未知数にあると言っても過言ではないと言えるのではないのでしょうか。前述したとおり、法定制度はこの10年間で確実に充実且つ広がりを見せてきているのですが、掘り起こされるニーズはまだまだ多く、そして複雑化してきていると言えます。だからこそ、中核センターの機能は未だ強く求められ、期待され、そしてそれが年間9万件という実績に繋がっているのです。

千葉県は法定制度を横断的に繋ぐ、そして不足するものを補完できる中核センターがあることで、他県よりも地域福祉を耕す力を持っています。これは未来に繋ぐべき大切な機能であり、決して減退させてはいけない、新たな時代にも改めて求められていく千葉県が誇るべき機能であると自負しております。

社会福祉制度は10年間変遷を続けてきました。しかし、その地域に住む人たちは同じです。千葉県が理念に掲げた「誰もが、ありのままに、その人らしく、地域で暮らすことができる地域社会」の実現のために。中核センターは未来に向かって展開していく必要があります。地域に住むすべての人と共に、地域福祉の未来を拓^{ひらく}いていきましょう。

ちから ちばの福祉力・社会資源

最も弱いものをひとりももれなく守る

千葉県重症心身障害児(者)を守る会
会長 田中 鈴子

重症児を守る会は、「決して争ってはいけない。争いの中に弱いものの生きる場はない」「親個人はいかなる主義主張があっても重症児運動に参加する者は党派を超えること」「最も弱いものをひとりももれなく守る」を会の三原則としています。

「重症心身障害」とは、重度の肢体不自由と重度の知的障害を併せ持つ状態をいいます。さらにほとんどの場合で日常的に医療的ケアを必要としています。重症心身障害児の発生数は、医学・医療の進歩充実により、減少するよりもむしろ増加傾向にあります。かつては死亡していたものも救命できるようになったことが大きな要因と考えられています。

全国で3万8千人くらい、千葉県では2千人くらいいるといわれています。全国3万8千人のうち、在宅重症児者は約2万5千人と推測されます。近年重症児者の障害の程度はさらに重度化しています。NICU等に長期入院中の子は3百人くらいいるようです。

在宅重症児者への支援は少しずつ進んでいますが、まだまだ十分とはいえません。とりわけ医療的ケアが必要となると、訪問看護や就学前の通園、特別支援学校卒業後の通所、短期入所の受入先は限られます。在宅でがんばっていても、突然来る親なき後に入所施設は必要です。長い要望活動をして、平成26年に人口の多い東葛地区に「東葛医療福祉センター光陽園」が柏市にできました。皆様のご支援のおかげです。ありがとうございました。「入所施設か在宅か」ではなく、どちらも最も弱いものにはなくてはならない大切なものです。

千葉県の療養介護・医療型障害児入所施設 分布図



	施設名	定員	短期	通所
1	聖母療育園	54	4	あり
2	下志津病院	120	空床	あり
3	千葉市桜木園	55	5	あり
4	千葉東病院	120	空床	なし
5	千葉リハ愛育園	※132	20	あり
6	東葛医療福祉センター光陽園	75	空床	なし

※肢体不自由児含む

ちば・元気印！～こんなひとたち、見つけた～

児童発達支援 あしたば を開設して

NPO法人たんぽぽ保育園 理事長 貝阿彌 政子

「あしたば」は千葉県野田市にある小さな障害児通所支援施設です。「あしたば」の子ども達は、「たんぽぽ保育園」の子ども達と共に遊び、体験を共有しながら成長しています。「たんぽぽ保育園」は、同じ施設内にある定員25名の小さな認可外保育園です。「家庭的で小さな温かい保育園が作りたい」「一人ひとりの子どもの心を大切にしたい」という思いから、平成15年より始めました。「たんぽぽ保育園」を始めて10年以上が経ちますが、その中で障がいのある子ども達と出会いました。「たんぽぽ保育園」では、障がいのあるなしに関わらず、みんなで育ち合う環境を目指してきました。そして平成27年4月に児童発達支援「あしたば」を開始しました。「たんぽぽ保育園」と同じく、見たい、聞きたい、知りたい、感じたいと思ったことを実現できる環境づくりが大切だと思っています。



「たんぽぽ保育園」では、自然の中でよく「あそぶ」、安全なものをよく「たべる」、安心してよく「やすむ・ねる」の3つを基本としてきましたが、「あしたば」でもこの3つを大切に考え、子ども達とすごしています。

「あしたば」の子ども達は、3歳児の子ども達と一緒に生活しています。一人ひとりの発達段階に合わせた基本的な生活習慣を身につけさせるための個別指導や集団生活で友だちと仲よく遊べる環境づくりを行っています。「あしたば」を始めて11か月が経とうとしています。スロープを下ることが難しいお友だちを見つければすぐに手を握って助けてくれる友だち、目の見えない友だちに手を握って自分の名前を伝えて挨拶する友だち、障がいのあるなしに関わらず一緒にじゃれ合っている姿を見ると「あしたば」を始めて良かったと感じています。たんぽぽの子どもは、どこにでも飛んでいき、踏まれても踏まれても力強く根付き、花を咲かせます。雑草のように生き抜く力を育て、「自分が大好きな人間になって」と願いつつ育てています。



千葉県野田市山崎1088番地の2

TEL：04-7125-5450

FAX：04-7121-6488

URL：<http://www006.upp.so-net.ne.jp/tanpopo-hoikuen/index.html>



ちば・地域発 ～県内ア・ラ・カルト～

第8回 世界自閉症啓発デーin ちば

～みんな大切な仲間です～

- 【日時】平成28年4月2日(土) 11:00～17:00
【会場】Qiball (きぼーる) 1Fアトリウム (千葉市中央区中央4-5-1)
【内容】毎年4月2日は国連が定めた「世界自閉症啓発デー」 4月2日から8日は発達障害啓発週間とされています。世界中で、みんなが一緒に自閉症について知り、考える日です。
【プログラム】○ミニコンサート(自閉症の方たちが音楽を奏でます!お楽しみに!)
○キャラバン隊『空』公演(出演:市川手をつなぐ親の会)
○リオマルカバンド(プラスバンドの壮大な演奏をお楽しみに!)
○劇団JAMBO公演(障がいのある人もない人も、一緒になって創る・楽しむミュージカル!)

【お問い合わせ先】千葉県発達障害者支援センター
TEL:043-227-8557

※4月2日～4月8日は18時～21時まで千葉ポートタワーがブルーにライトアップされ、4月2日には千葉城のライトアップも予定されています。

第27回 心のふれあいフェスティバル

見たいな あなたの笑顔 見せたい 私の笑顔

- 【日時】平成28年5月11日(水) 10:25～14:30
【会場】千葉市中央公園・千葉市文化センター(千葉市中央区中央2-5-1)
【内容】
《千葉市中央公園》作品展示・バザー 青空パフォーマンス
心のよろず相談・メンタルヘルスチェック(13:30まで)
《千葉市文化センター》 演芸大会 心のよろず相談 (13:30まで)
*悪天候の場合、作品展示・バザーは文化センターで行い、青空パフォーマンスは中止します。

【お問い合わせ先】 【参加費】 無料
心のふれあいフェスティバル事務局(千葉県精神保健福祉センター内)
TEL:043-263-3891

※天災など不測の事態により、急遽中止する場合は、千葉県精神保健福祉協議会のホームページ(<http://chiseikyo.mdn.ne.jp/>)にその旨掲載しますので、ご確認ください。

発行元:千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会 代表者:中塚博勝

事務局:夷隅ひなた(夷隅圏域) いすみ市大原8927-2 TEL:0470-60-9123 FAX:0470-60-9124

編集:君津ふくしネット(君津圏域) 富津市青木2-16-14 TEL:0439-27-1482 FAX:0439-88-1481

※内容についてのお問い合わせは、君津ふくしネット(担当:玉手)までお願いします。